

令和4年度

# 市民福祉常任委員会

## 行政視察報告書

○視察期間 令和4年7月12日～15日

○視察先および視察テーマ

・高知県南国市

『地域包括支援センターの取り組みについて』

・愛媛県新居浜市

『第2次元気プラン新居浜21の取り組みについて』

・愛媛県西条市

『健幸都市西条実現の取り組みについて』

・岡山県赤磐市

『エコプラザあかいわ（赤磐環境センター）について』

○参加委員 委員長 高野美枝子

副委員長 東川孝義

委員 東千春

川村幸栄

五十嵐千絵

倉澤宏

市民福祉常任委員会の行政視察について報告いたします。

当委員会では「高齢化社会における健康寿命の延伸について」を調査研究のテーマとして7月12日から15日までの4日間、高知県南国市、愛媛県新居浜市、愛媛県西条市、岡山県赤磐市で行政視察を行いました。

## ■ 高知県南国市の「地域包括支援センターの取り組みについて」

南国市では「地域包括支援センターの取り組みについて」視察しました。後期高齢者一人当たりの医療費では高知県が全国1位、南国市は県内2位となっていることから地域包括支援センターの機能強化は第8期計画の重点施策であり、介護予防把握事業で保険事業と介護予防との一体的な実施を行っています。



介護認定を受けていない75歳以上の方の家庭訪問を学びました。

75歳以上で介護認定を受けていない方のために、保健師と地域支え合い推進員で家庭訪問を行っています。介護予防普及啓発事業では特に参加が少ない男性に焦点を当て、65歳以上の男性のために参加料無料で「男のための健康教室」を行い、参加者募集のチラシにも工夫をしているとのことでした。

介護認定につながっていない高齢者への訪問事業、市民ボランティアによるフレイルサポーターの募集、また「長寿支援課」という担当課の名称は市民にわかりやすいなど、参考になる点が多くありました。

## ■ 愛媛県新居浜市の「第2次元気プラン新居浜21の取り組みについて」

新居浜市では「第2次元気プラン新居浜21の取り組みについて」視察しました。「日々すこやかに笑顔あふれる健康のまち」をスローガンに2014年から2024年までの計画期間で、健康寿命の延伸、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底など5項目に取り組んでいます。

具体的には「健康長寿地域拠点づくり事業」として、送迎に頼らない住民主体の通いの場づくりに対する支援で、自治会館等を活用し週1回5人以上の参加で介護予防体操を実施することを条件に、市民体操指導士を養成し、運動支援・機能評価・出前講座を行っています。

生活習慣病の発症予防と重症化予防の取り組みでは、就労層の運動習慣の定着、

健康意識の向上促進のため、3～5人1組のチームでウォーキングをし、活動量計で歩数や消費カロリーを測定します。チーム対抗で競い、参加特典としてタニタの活動量計やポイントの贈呈、プログラム協賛店での割引を行っています。健康プログラム事業の効果として20歳代からの参加、歩数増加、BMIの改善、運動日数の増加があったとの説明を受けました。



健康体操を体験しました。

2019年の中間評価では「健康長寿拠点づくり事業」、「健康プログラム事業」については一定の成果をあげており健康経営事業者との連携、ポイント付与の取り組みは、この地域の就労年齢層を対象とした健康プログラム事業の中心的役割を果たしている印象を受けました。情報弱者対策、保健事業と介護予防を一体的に実施するための保健・医療・福祉の連携強化など、本市も同様の課題を有していますので、今後も新居浜市の状況を注視し参考にしていきたいと思えます。

## ■ 愛媛県西条市の「健幸都市西条実現の取り組みについて」

西条市では「健幸都市西条実現の取り組みについて」視察しました。西条市版SDGsの推進として健康寿命の延伸、働きがいの創出・経済活力の維持、経営感覚のある行財政運営の実践を設定し、具体的な取り組みにつなげています。



企業の健康意識の醸成に力を入れている西条市。

健康づくり地区推進員事業では、地区ごとの健康づくり推進員が地域の健康づくりの担い手として、学習会やイベントなど、健康づくりの輪を広げる活動を行っています。平成26年度には各地区の推進員が地域の情報を盛り込んだウォーキングマップを作成し、翌年度からはそのマップを利用した健康づくり推進事業が開始されました。今は、推進員に負担がかからないように協議を重ね、健康アンバサダー（ボランティア）という形に移行してきています。また、保健師の企業訪問により、企業の健康意識の醸成を図っています。

市職員も多く参加している「ワクワク健康ポイント事業」は活動量計やスマー

トフォンを活用し、ポイントを貯めます。市内の店舗で利用でき、健康寿命の延伸を図りつつ経済活動にも貢献しています。「笑いで健康づくり推進事業」では令和4年度は愛媛プロレス・笑いヨガを検討中とのことでした。

本市でもNスポーツコミッションと連携した様々な健康寿命の延伸に寄与する取り組みも行われ、さらなる連携で健康と経済、地域コミュニティの活性化を進めていけると改めて実感できました。また、健康量計やアプリケーションの活用では、地域ポイントへの交換が市民の健康づくりを始めるきっかけになることを確認しました。少子高齢化対策として市民、企業、行政が一体となることが重要であると改めて認識しました。

## ■ 岡山県赤磐市の「エコプラザあかいわ（赤磐環境センター）について」

赤磐市では「エコプラザあかいわ（赤磐環境センター）について」視察しました。名寄地区衛生施設事務組合では炭化処理施設が老朽化し、現在循環型社会形成と最終処分場の延命化を図るため、中間処理施設の検討が進められており、望ましい処理施設の参考にするため視察先としました。人口推移とごみの排出量では、人口減少よりも総排出量は減少しており、1日一人当たりの具体的な目標を設定し取り組んでいます。総排出量減少の背景には、リサイクル率の向上が効果をあげていました。



リサイクル・リユースに力を入れていました。

名寄市においても高齢者や転勤者が分かりやすい分別方法を検討する中で、プラスチック処理の分別の考え方、総排出量の減量化に向けての取り組みを含めた、機種選定と分別を進める際の具体的な手法について学ぶことができました。また、設備導入に向けては、最終処分場の延命対策及びランニングコストの低減に向けた建設費用を考えることが必要であると感じました。

コロナウイルス感染症で2年間視察ができませんでしたが、今回4市を視察し、創意工夫を重ね、輝いている担当者に大いに刺激を受けましたので、この視察を通して得た成果を今後の活動に活かしていきたいと思えます。

以上、市民福祉常任委員会の行政視察報告とします。